



歯科診療室だより

公立みつぎ総合病院

17号

令和元年6月8日

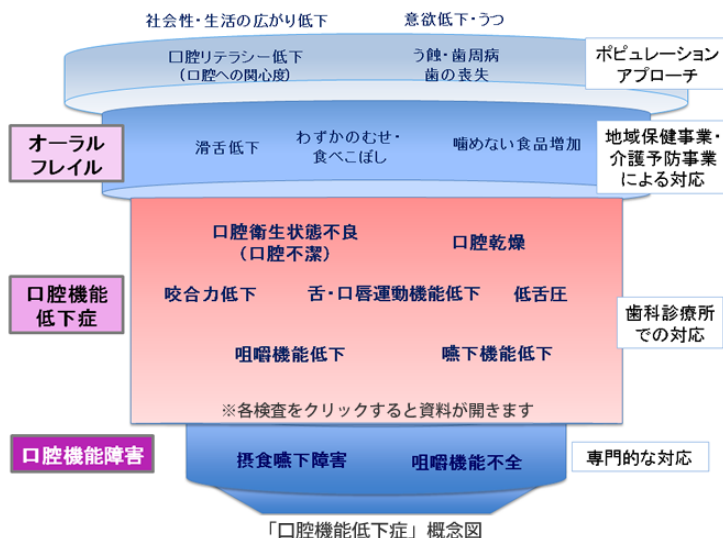
新しい元号“令和”

平成が終わり令和になって1か月が経ちました。ところで、右の人物は誰でしょうか？ 皆さんもご存知だと思いますが、万葉集「梅花の歌」の序文、「初春の令月(れいげつ)にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。」の作者でもある大伴旅人(おおとものたびと)です。旅人は、奈良時代の公卿・歌人で、神亀(じんき)4年(727年)頃、大宰帥(だざいのそち)として九州に下り、旅人を中心として山上憶良(やまのうえのおくら)などと「筑紫歌壇」と呼ばれ、旺盛な作歌活動を展開しました。令和の由来となった詩が詠まれた時期でもあります。そして、令和には、悠久の歴史と香り高き文化、四季折々の美しい自然、こうした日本の国柄をしっかりと次の時代へと引き継いでいく、厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いが込められています。(首相談話一部引用)



オーラルフレイル

オーラルフレイルという言葉聞いたことはありますか？オーラルとは“口腔”フレイルとは“虚弱”という意味があり、この二つの言葉を合わせたものです。



“くちが弱っている”とは、なかなか気づきません。歩くことができなくなったり、こけやすくなったりすれば身体が衰えたと感じますが“くち”の衰えは目に見えません。毎日口を動かしているし、話もできます。食べることもできます。オーラルフレイルは、病気ではありません。しかし、健康でもありません。病気と健康の間だと思って下さい。ですから、日々の“くちの運動”に気を

付ける事や歯科への受診でまだまだ健康へと向かうことができます。何もしなければ病気に向かっていきます。詳しく知りたい方は**歯科スタッフ**までお尋ね下さい。

文責 診療部長 占部秀徳